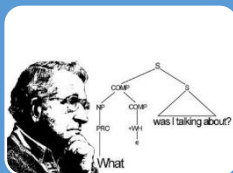

2016 年度 映画英語教育学会 (ATEM) 第 14 回西日本支部大会

日時：平成 28 年 11 月 5 日 (土)
10:00~17:35

会場：京都大学 国際高等教育院
(吉田南総合館北棟)

【アクセス】 606-8501 京都市左京区吉田二本松町
<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/facility-guide> (3 番)

参加無料



映画英語学ワークショップ

「映画から見た生成文法研究」

Picture : <http://rokujiro.blog.fc2.com/blog-category-17.html>



シンポジウム

映画『スターウォーズ』を読み解く

Picture: <http://buzz-plus.com/article/2015/11/14/star-warsthe-force-awakens/>



特別講演

「映画」を文化情報学的に科学する — 言語的情報に着目して —
山内信幸先生 (同志社大学文化情報学部長・文化情報学科教授)

The Association for Teaching English through Movies

大会プログラム

9:30-12:30 【受付】

9:55 【開会の辞】（共北 26 教室）

司会：井村誠（事務局長、大阪工業大学）、挨拶：横山仁視（支部長、京都女子大学）

10:00-12:00 【映画英語学ワークショップ】（共北 26 教室）

テーマ：「映画から見た生成文法研究」

司会・発表 1：平井大輔（近畿大学）「いま、生成文法理論で議論されていること」

発表 2: 吉田幸治（近畿大学）「英語における節形式を伴わない発話」

発表 3: 石川弓子（愛知学院大学）「小節とラベル付け —映画からのアプローチ—」

発表 4: 大宗純（関西外国語大学・院生）「会話に見られる虚辞 *there* 構文」

12:05-14:30 【研究発表】（A：共北 26 教室、B：共北 25 教室）

12:05-12:30 A 司会：田畑圭介（神戸親和女子大学）、B 司会：北本晃治（帝塚山大学）

研究発表 1A：松江夏津紀（京都橘大学・非）「教室でのスラング（若者ことば）指導は必要か？

—『ズーランダー No.2』の用例と学習者のスラング使用の印象調査—」

研究発表 1B：辰巳遼（京都外国語大学・非）「感情とメディア文化—映画を通して文化的感情を考
える」

12:35-13:00 A 司会：田畑圭介、B 司会：北本晃治

研究発表 2A：西川真由美（摂南大学）「映画英語で学ぶ DM *so* の多義性」

研究発表 2B：賀治一市（Ichi 映語 House）「役に立たない「映画で英語」役に立てたい「映画で英語」

13:05-13:30 A 司会：松江夏津紀、B 司会：辰巳遼

研究発表 3A：蘆寛美（京都産業大学）「過去形を使用した婉曲的表現・丁寧表現の資格英語へのリス
ニング活用法」

研究発表 3B：深津勇仁（福岡女子大学・非）「クリント・イーストウッド西部劇と『グラン・トリノ』
—米国文化論、英語教育での実践を視野に—」

13:35-14:00 A 司会：松江夏津紀、B 司会：辰巳遼

研究発表 4A：塩見佳代子（立命館大学）「映画『Catch me if you can』の用例を用いたスピーチとロ
ールプレイから学ぶ英語表現力」

研究発表 4B：金田直子（APEX, Inc）「映画教材を使用した教員研修の可能性 —韓国小学校英語教員
の質的調査をもとに—」

14:05-14:30 A 司会：井村誠、B 司会：近藤暁子（兵庫教育大学）

招待発表 5A：小林敏彦（ATEM 北海道支部長、小樽商科大学）「洋画の教材開発：『LEON』のどの
部分をどう見せて、何をするのか」

研究発表 5B：Michael Okamoto (The University of Shiga Prefecture) "Student-based analysis of
world design in fictional films"

14:35-14:55 【業者発表】（共北 26 教室）

司会：松田早恵（広報委員長、摂南大学）

業者発表：

小川洋一郎（朝日出版社）「映像メディア関連教材のご案内」

乾亜弥子 (マクミラン ランゲージハウス) 「Digital Student Book を用いた動画による英語習得について」

15:00-16:20 【シンポジウム】 (共北 26 教室)

シンポジウムテーマ: 「映画『スター・ウォーズ』を読み解く」

司会: 元山千歳 (京都外国語大学)

パネリスト:

ルッケル瀬本阿矢 (京都大学) 「『スター・ウォーズ』に見る異文化共存思想—グローバル人材の育成のために—」

國友万裕 (同志社大学・非) 「ルーク・スカイウォーカーはゲイだったのか?」

中村友紀 (関東学院大学) 「このイメージはどこから来たの? —アメリカ的教養をグローバル・オーディエンスが共有するということ—」

16:20-16:30 休憩

16:30-17:20 【特別講演】 (共北 26 教室)

司会: 藤枝善之 (大会委員長、京都外国語大学・短期大学)、講師紹介: 横山仁視 (支部長)

講師: 山内信幸 先生 (同志社大学文化情報学部長、文化情報学科教授)

演題: 「映画」を文化情報学的に科学する —言語的情報に着目して—

17:20-17:30 【支部総会】 (共北 26 教室)

司会: 井村誠

17:30 【閉会の辞】 (共北 26 教室)

挨拶: 藤枝善之

18:00-19:40 【支部交流会】 (串八 百万遍店) <http://r.gnavi.co.jp/p2wnp59p0000/>

(出展賛助会員)

朝日出版社

英宝社

成美堂

Macmillan LanguageHouse

Nellie's English Books

Seed Learning

ワークショップ発表概要

[共北 26 教室]

題：「映画を通した生成文法研究」

司会・講師 平井大輔（近畿大学）「生成文法理論で今議論されていること」

講師 大宗純（関西外国語大学大学院院生）

講師 石川弓子（愛知学院大学）「小節とラベル付け」

講師 吉田幸治（近畿大学）「省略現象の理論と実践」

（アブストラクト）

Noam Chomsky 氏による生成文法が誕生してから、60 年以上が経とうとしている。その間、幾度かの理論的修正を経て、現在でも活発な議論が続いている。本ワークショップでは、最新の枠組みを紹介したのち、3 人の講師により様々な現象を映画を通して検証する。理論研究が先行しているように思われがちな生成文法理論であるが、理論研究と映画に見られるセリフの接点を探りたい。

平井講師

イントロダクションとして、Chomsky (2013)(2015)などの範疇のラベル付けに関する基本的枠組みをこれまでの生成文法の流れを簡単に見ながら紹介する。その際、理論的仮説を支持する事例を映画を通して見えみたい。

吉田講師

Rizzi (2005)はフェイズ理論にもとづき、「ルートのエッジは発音されなくてもよく、そのまま解釈部門でアクセス可能である」という趣旨の“the privilege of the root”（以下 TPTR と略）を提案している。本発表は TPTR によって現代英語の省略現象の一部が説明可能であることを示すと同時に、理論と実際の接点を探ることを目標とするものである

石川講師

本発表では、Chomsky (2013)で提案されているラベル付けアルゴリズムに従って、いわゆる 5 文型 (SVOC) の O と C のように、主部と述部の関係が成り立つ小節構造を含む構文を映画のセリフを用いて紹介し、その派生について論じる。

大宗講師

事物の存在・出現を表す虚辞 there 構文では、There are three men in the room.のように、通常、動詞は意味上の主語と一致する。しかし、意味上の主語が複数であっても縮約形の場合は There's three men in the room.のように、there're ではなく there's が使用される場合がある。本発表では、最近のミニマリストプログラムの枠組みの下、このような会話においてしばしば見られる there's 縮約形を含む虚辞 there 構文の派生を分析する。

研究発表概要

[研究 A : 共北 26 教室 研究 B : 共同北 25 教室]

研究発表 1A

教室でのスラング（若者ことば）指導は必要か？－『ズーランダー No.2』の用例と学習者のスラング使用の印象調査－

松井 夏津紀（京都橘大学・非）

インターネットでは、「かっこいいスラング」や「流行しているスラング」などの解説サイトや学習サイトが多く見られる。日本人大学生の英語学習者は同年代の英語母語話者が使用する口語表現を習得したいと考えているのだろうか。また、学習者がそのような英語の若者ことばを使用することに對し、同年代の英語母語話者はどのような印象を持つのだろうか。本発表では、『ズーランダー No.2』などの映画で觀察される英語のくだけた口語表現の例を取り上げ、学習者がスラングを用いて発話をするスピーチスタイルが、聞き手に対してどのような効果、あるいは逆効果をもたらすのかについて考察する。そして、学習者の規範にとらわれないスピーチスタイルが英語母語話者にどのような印象を与えるのかについて英語母語話者の大学生に聞き取り調査とアンケート調査を行い、その結果を踏まえながら教室内でのスラング指導の必要性について検討する。

研究発表 1B

「感情とメディア文化—映画を通して文化的感情を考える」

辰巳 遼（京都外国語大学・非）

感情をめぐる議論は、心理学は勿論、歴史学や社会学の領域で長らく議論が繰り返されてきた。しかし文化をめぐる感情の問いとしては、日本においては特に、最近になってようやくテーマとして取り上げられるようになってきたばかりである。グローバリゼーションにおいてメディアは、感情と関わりながらコンバージェンスな現象を引き起こすと同時に、個人の感情の公的な衝突を含めた、これまでとは異なる形での結びつきを起こす。感情の議論はまさしくメディアを通じた文化的アイデンティティの問題そのものである。映画は視覚的、聴覚的にイメージを伝達するメディアであるため、文化的な感情の働きを探るのに適している。本発表では文化的な感情の生産と消費を『バットマン vs スーパーマン』や可能であればホラー映画をはじめとした複数のジャンルの映画を使用して考察する。

研究発表 2A

英語映画で学ぶ DM so の多義性

西川真由美（摂南大学）

DM（談話標識）so は、後件が前件から導き出される結果（結論）であることを示すために用いられると考えられてきた(Schiffrin 1987 ; Blakemore 1988 他)。しかしながら、DM so の意味機能は非常に多様で、談話の中のさまざまな節目に生起し、会話の開始や終了、話題の調整（導入・転換・展開・回帰など）や談話の総括などを表すためにも用いられる。従来の考察は DM so の基本的な例は説明することができるが、このような発展的な例を説明することができなかった。本稿では、『恋愛適齢期』などの映画英語の会話に見られるさまざまな DM so の使用例を分析し、その多義性について考察する。そして、それぞれの使用文脈において、どのようなメカニズムでこのような複数の機能的意味が導出されるのかを示す。同時に、視聴覚同時メディアである映画がこのような解釈上の手続きを示す言語項目の理解と習得に非常に有用であることを示す。

研究発表 2B

役に立たない「映画で英語」役に立てたい「映画で英語」

賀治 一市（Ichi 映語 House）

一般に「映画を使って英語を覚える」というが、何を覚えるのか。文法か、慣用句か、名言か？これらは会話の役に立つのか？望むことは「映画の内容が理解でき、話せるようになりたい」ことである。「話語」を学ぶのに映画は適してはいない。良きも悪しきも「英語は異国の言葉」を実感することになる。とくに「映語」は日本人

には「映画で英語」をあきらめざるを得なくなる「雑音」である。「英語の勉強をもっとやっておけば・・・」と自分を責めるが、「学校で習ってきたこと」では「映語」の音に対応することは不可能である。そこで最も難解であろう映語の「音」＝セリフを可視化し、「雑音の本性を」を目で確認、「セリフ音」が一元で理解できるような仕組みを PowerPoint 利用で作成した。リアルな英語は「音」にある。映画 007/Die Another Day のセリフを使ってその内容を解説する。

研究発表 3A

「過去形を使用した婉曲的表現・丁寧表現の資格英語リスニングへの活用法」

菫 寛美 (京都産業大学)

婉曲的表現・丁寧表現をするために過去時制が用いられることが頻繁にある。過去時制を使用すれば、過去の事実を述べる以外に婉曲・丁寧さを表現できる。過去形が単純に過去の事実（現在からの時間的距離）のみを表現することの他に、丁寧さや、仮定の話（現実からの心理的距離）を表現できるからだ。第2者に対して丁寧に依頼する際にも過去形を使用するのは、その例であって、相手に対して遠慮があり、距離を置くからである。その際に、助動詞「would、could、should、might」との組み合わせが多々見られ、仮定法の用法と見なされる。また、命令文・疑問文の他に、平叙文の過去時制表現を用いることにより、依頼の意思表現をすることが可能だ。代表格の“I was wondering if you could~”をはじめ、多くのそういった表現を「ビューティフル・マインド (2001)」などの用例を用いて考察する。それを資格英語 (TOEIC®) におけるリスニング学習に役立てる方法を紹介する。

研究発表 3B

クリント・イーストウッド西部劇と『グラン・トリノ』～米国文化論、英語教育での実践を視野に～

深津 勇仁 (福岡女子大学国際文理学部・非)

映画俳優兼監督として数多くの作品を制作した クリント・イーストウッドは、『許されざる者』で西部劇のジャンルにおいては三作品目となるアカデミー作品賞を受賞した。イーストウッド西部劇の特徴は正統主義西部劇とは異なる、善悪二元論描写の転換にあると指摘される。敷衍すると、古典作品において悪役として描写されてきた賞金稼ぎや無法者を物語の中心に据え、保安官や町の自警団といった人々の正義を疑問視することで西部劇を補正した。最終的にイーストウッド西部劇は、2008年公開の『グラン・トリノ』でその修正主義を完結する。同作品は、米国社会の抱える人種問題や銃規制といった様々な議論に西部劇の世界観を投影することで、新たな勧善懲悪の価値観を現代に具現化した。本報告ではイーストウッド西部劇における修正主義を、登場人物の善悪表象に着目し再考察することで、文化論や英語教育への実践を視野に入れ提起する。

研究発表 4A

映画『Catch me if you can』の用例を用いたスピーチとロールプレイから学ぶ英語表現力

塩見佳代子 (立命館大学)

本発表では、映画『Catch me if you can』の用例を用いたアクティブラーニングの内容を報告する。授業では、学生は映画の中の様々なシーンを繰り返し聴きながら穴埋め問題を行い、内容を字幕なしで理解することを目指すと同時に、ワークシートと自律学習のためのポートフォリオを用いてさまざまな英語表現を学ぶ。また、主人公の父親がロータリークラブで行った Two Little Mice のスピーチの再現と、主人公が国外へ逃走する前のシーンのロールプレイを実施して、英語の受信力だけでなく、発信力を養成する活動も導入した。スピーチでは、文を暗記して覚えるだけでなく、大切なメッセージを伝えるための話し方や間の取り方などに注意し、ロールプレイでは、セリフを読むだけでなく、実際の状況に合わせて感情を表現し、身振り手振りを交えて役を演じながら英語の表現力を身につける練習をした。今回はそれらの実践活動について発表する。

を使用して考察する。

研究発表 4B

「映画教材を使用した教員研修の可能性 —韓国小学校英語教員の質的調査をもとに—」

金田 直子 (APEX,Inc)

2020年より小学校高学年からの外国語(英語)を正式教科に、そして「外国語活動」の開始を3年生に早めるなど学習指導要領の改訂が進んでいる。教科化に向けて喫緊の課題の一つは担当教員の研修をどのようにするかである。一方韓国では1997年より既に「初等学校」(小学校)3年生から英語を必修科目として導入している。初等学校に英語導入当初は指導に当たる教員数を十分に確保できず、現職教員を対象に大規模な120時間の研修や研修院を基点とした様々な研修を行うなどして教員の資質向上に力を注いできた。小学校英語教員研修の利点と改善点を韓国の現職小学校英語教員の先生方へのインタビュー調査をもとに Corbin & Strauss (1990) の質的調査であるグラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて分析を行った。映画『マダム・イン・ニューヨーク』などの用例を用いた教員研修の可能性を考察し、望ましい教員研修のあり方を提案する。

研究発表 5A

「洋画の教材開発：「LEON」のどの部分をどう見せて、何をするのか」

小林 敏彦 (北海道支部支部長・小樽商科大学)

洋画レオンの聞き取りシートを中心に、洋画作品と数分の使用シーンの選定、さらにリスニングからディスカッションまでのタスクの構築の手法を提示する。教師自身が過去に鑑賞した思い出深い作品を授業で使いたいと思いついた瞬間から次に何をどうすべきかを説明し、約45分程度の時間を想定した授業配布用のハンドアウトの完成までの全プロセスを説明する。教材の実物として、私が過去15年間担当してきた小樽商科大学の教職科目「英語科教育法 III (教材開発論)」の受講者が作成した授業配布用のハンドアウトの実物をすべて発表会場に持ち込み、一人でも多くの方々に実際に手に取ってご覧いただく予定である。

研究発表 5B

"Student-based analysis of world design in fictional films"

Michael Okamoto (The University of Shiga Prefecture)

This presentation will explain the importance of analytical analysis of object design in films while considering the larger idea of world building. Although objects in movies are often made to be aesthetically pleasing, many studios are now looking beyond how an objects looks and delving deeper into the over-encompassing physics that rule that particular universe. By considering the way objects are employed when looking at the larger idea of world design, students, especially those interested in science and engineering, can study the incorporated physics and laws adopted in their favorite fictional worlds. Using available technical data that is now often included in texts and websites, students will not only better understand their favorite stories but can then use this skill to better understand and express themselves in real world situations. This presentation will focus mainly on examples from Star Wars, Game of Thrones, and The Lord of the Rings universes.

シンポジウム発表概要

テーマ：「映画『スターウォーズ』を読み解く」

[共北 26 教室]

「『スター・ウォーズ』に見る異文化共存思想—グローバル人材の育成のために—」

ルッケル瀬本阿矢（京都大学）

昨今、国内外の急速なグローバル化の流れに伴い、高等教育機関においてグローバル人材の育成の重要性が高まり、外国語能力のみならず、異文化理解教育もより一層重要な課題となってきている。そこで、異文化教育の教材として『スター・ウォーズ』の利用を提案する。本発表では、ルーカスが本映画の中で理想郷である異文化共存社会を描くことになった当時の社会的背景、東洋思想の影響、そして『スター・ウォーズ』に描かれる、文化がハイブリッド化した社会に着目しながら、本映画がいかに関グローバル人材の育成のための教材として役立つかを検証する。

「ルーク・スカイウォーカーはゲイだったのか？」

國友万裕（同志社大学・非）

2015年、アメリカ最高裁がついに同性婚を認めた。この流れを受けて日本でもLGBTの人権問題の認識が緊急な問題となっている。アメリカでは、『オズの魔法使い』『Xmen』『アナと雪の女王』などもLGBTの物語としての分析対象となっているが、『スター・ウォーズ』も話の中心となるルークはゲイなのではないか？という見方がネットを賑わしている。ルークをゲイだと仮定するならば、『フォースの覚醒』はLGBT擁護者と反LGBTの保守派の争いの物語と解釈できるであろう。本発表では様々なゲイのメタファーに言及し、本作がLGBT解放へとつながるメッセージを含んでいることを主張したいと思う。

「このイメージはどこから来たの？ —アメリカ的教養をグローバル・オーディエンスが共有すること—」

中村友紀（関東学院大学）

映像表現を理解するには、それが意味するものを理解するための共通知識つまり教養や文化的コンテキストの共有が必要である。『スター・ウォーズ』の構想にはジョゼフ・キャンベルの神話学が影響しており、神話や文化人類学など20世紀後半のアメリカで高等教育を受けた人が共有する「彼らなり」の知識の上に成立している。では、一文化圏の教養に基づく表現を、世界中のオーディエンスはどう受け止めそこからいかなる影響を受けるのか。グローバル環境での多文化受容を本発表で考える。

特別講演発表概要

[共北 26 教室]

「映画」を文化情報学的に科学する ―言語的情報に着目して―

山内信幸（同志社大学文化情報学部長・文化情報学科教授）

同志社大学文化情報学部では、人間に関わる有形無形のあらゆる事象を文化と捉え、データサイエンスの手法で分析することを目指している。本講演では、文化情報学的分析手法に基づいて、映画の文字情報であるタイピングや字幕翻訳の諸相に焦点を当て、洋画のタイピングに見られる傾向やその印象との関連性ならびに字幕翻訳の第1人とされる戸田奈津子氏の字幕翻訳における「ワザ」などに着目して、考察を行う。

講演者プロフィール

山内 信幸（やまうち のぶゆき）

1959年京都府生まれ。同志社大学文学部英文学科卒業後、同志社大学大学院文学研究科博士課程前期修了（英語学専攻）。新島学園女子短期大学・同志社大学経済学部（のちに学内改組で言語文化教育センター）を経て、2005年より、同志社大学文化情報学部教授。現在、文化情報学部長を兼任。学会活動として、表現学会事務局長や日本比較文化学会会長・副会長も歴任。専門は、英語学・日英対照研究で、主な研究領域は、形容詞・副詞などの修飾語の機能・構造の解明。



主要著作：『世界の英語小辞典』（研究社、1992、共著）；『はじめてのCAI―より効果的な英語教育を求めて』（山口書店、1992、共著）；『現代の英語学』（金星堂、1993、共著）；『ことばの樹海―石黒昭博先生還暦記念論文集』（英宝社、1994、共編著）；『現代の言語学』（金星堂、1996、共著）；『英米文化常識百科事典』（南雲堂、1996、共編著）；『Linguistic Stylistics: A Reader―言語学と文体論』（英宝社、1997、共編著）；『日英対照文法研究の諸相』（英宝社、1997、編）；『比較文化学論纂』（開文社、1998、共著）；『現代の英語科教育法』（英宝社、2003、共著）；『言語研究の接点―理論と記述―』（英宝社、2004、共編著）；『文化情報学入門』（勉誠出版、2006、共著）；『漢日理論言語学研究』（学苑出版社、2009、共著）；『言語表現学の基礎と応用（言語表現学叢書第一巻）』（清文堂、2013、共編）；『現代英語学へのアプローチ』（英宝社、2014、共編著）など。

会場校へのアクセス

京都大学 国際高等教育院 (吉田南総合館北棟)
606-8501 京都市左京区吉田二本松町
<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/facility-guide> (3番)



これまでの ATEM 西日本支部大会シンポジウムテーマ

【支部大会】

2002年9月14日	映画英語教育学会関西支部設立決起大会開催（於：京都外国語大学）
2003年9月14日	映画英語教育学会関西支部 第1回大会開催（於：京都外国語大学） 「怪物映画に学ぶ ドラキュラ vs フランケンシュタイン vs スパイダーマン」
2004年6月26日	映画英語教育学会関西支部 第2回大会開催（於：京都外国語大学） 「Working Girl 徹底活用法」
2005年9月18日	映画英語教育学会関西支部 第3回大会開催（於：京都女子大学） 「DAVE 徹底活用法」
2006年10月21日	映画英語教育学会関西支部 第4回大会開催（於：大阪工業大学） 「I am Sam 徹底活用法」
2007年10月20日	映画英語教育学会関西支部 第5回大会開催（於：摂南大学） 「The Devil Wears Prada 徹底活用法」
2008年10月18日	映画英語教育学会関西支部 第6回大会開催（於：京都ノートルダム女子大学） 「Anne of Green Gables 徹底活用法」
2009年9月26日	映画英語教育学会関西支部 第7回大会開催（於：帝塚山大学） 「LITTLE MISS SUNSHINE 徹底活用法」
2010年9月25日	映画英語教育学会関西支部 第8回大会開催（於：近畿大学） 「SHANE 徹底活用法」
2011年10月8日	映画英語教育学会関西支部 第9回大会開催（於：京都女子大学） 「Twelve Angry Men 徹底活用法」
2012年11月25日	映画英語教育学会関西支部 第10回大会開催（於：京都外国語大学） 「The King's Speech 徹底活用法」
2013年11月23日	映画英語教育学会関西支部 第11回大会開催（於：広島国際大学） 「Gung Ho 徹底活用法」
2014年11月8日	映画英語教育学会関西支部 第12回大会開催（於：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス）「Invictus 徹底活用法」
2015年11月14日	映画英語教育学会関西支部 第13回大会開催（於：大阪工業大学うめきたナレッジセンター）「Frozen 徹底活用法」

これまでの映画英語学ワークショップのテーマ

【映画英語学ワークショップ】

2009年5月9日	映画英文法ワークショップ 第1回大会開催（於：京都外国語大学） 「英語の時制表現に関する一考察」
2010年5月8日	映画英文法ワークショップ 第2回大会開催（於：京都外国語大学） 「認知言語学で読み解く映画の英語 —中・高・大の授業の活性化をめざして—」
2011年5月14日	映画英語学ワークショップ 第3回大会開催（於：京都外国語大学） 「語用論で読み解く映画の英語」
2013年6月1日	映画英語学ワークショップ 第4回大会開催（於：京都外国語大学） 「音声で読み解く映画の英語」
2014年6月21日	映画英語学ワークショップ 第5回大会開催（於：京都外国語大学） 「統語論で読み解く映画の英語」
2015年6月27日	映画英語学ワークショップ 第6回大会開催（於：京都外国語大学） 「語法で読み解く映画の英語」

※第3回大会よりワークショップ名を変更

お知らせ

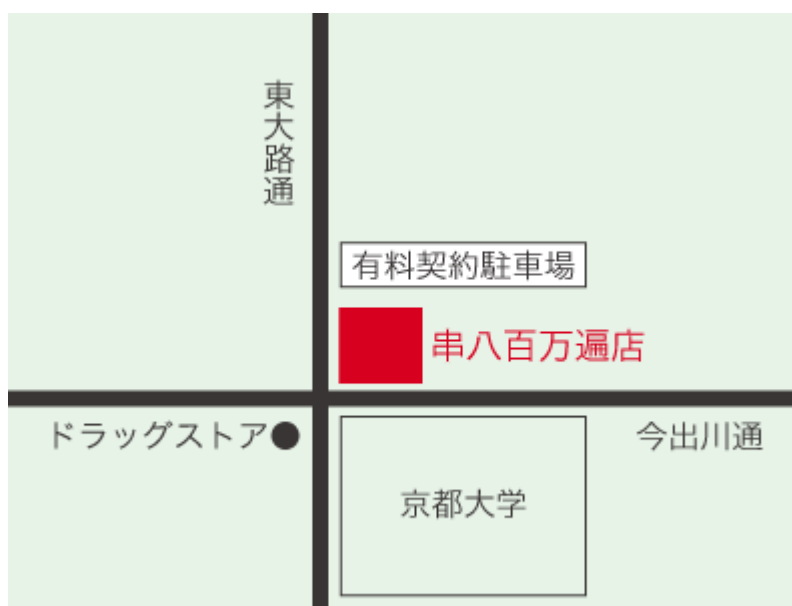
【大会参加費について】

会員・非会員とも大会参加費は無料です。
どなたでも自由に参加できます。ご来場をお待ちしています。

【交流会参加費について】

参加費は大会受付にてお支払いください。一般会員は4,000円、学生は支部より1,000円を補助します。会員諸氏との交流および発表者との意見交換の場として是非ご参加ください。

(会場) 串八 百万遍店 〒606-8225 京都市左京区田中門前町81 (Tel: 075-721-0330)



新会員申込は本部HP (<http://www.atem.org/>) 「新規入会」から

電話・FAX またはE-mail でお申込みください。

申込先： 映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12 アルク高田馬場4F

株式会社 広真アド内

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

ATEM Nishinihon Chapter

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会（ATEM）西日本支部

事務局：大阪工業大学

井村 誠 研究室内

makoto.imura@oit.ac.jp